新潟県自殺予防教育プログラム（小中学校編）

ＳＯＳの出し方に関する授業 Step１　学習指導案（小中学校編）

１　ね ら い：　気持ちを表現する言葉に触れる活動をとおして、自分の気持ちに気づき、言葉で表現できるようになる。

２　対　　象：小学校高学年、中学１～３年生

３　使用教材：□ワークシート「自分の気持ちを言葉で表現しよう」

□教材動画「自分の気持ちを言葉で表現しよう」

□黒板表示「Ａさん、Ｂさんのイラスト」

□プリント「相談窓口一覧」

□相談に関する１分間アンケート（授業の前日までと、翌日以降の２回実施）

４　評価規準：自分の気持ちを言葉で表現する必要性について、理解することができた。

５　本時の流れ：45分

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点等 |
| 授業前日まで | ※心身の不調を抱えているなど、配慮の必要な児童生徒には、あらかじめ授業に参加できそうか確認し、必要な対応を行う。 |
| 導入５分 | １ ワーク１気持ちを表す言葉について考える。気持ちを表す言葉を、１分間で出来るだけたくさん書いてみよう。○個人で考え、ワークシートに記入する（１分間）○学級で共有する（３分間） | ・感情以外の言葉（思考、身体感覚など）が児童生徒から出ても、否定しない。・気持ちについて考える授業であること、正解、不正解があるものではないので、リラックスしてほしいことを伝える。 |
| 展開１12分 | ２ ワーク２気持ちを言葉で表現する必要性について考える。ＡさんとＢさんの気持ちは？あと３つずつ考えよう。○個人で考え、ワークシートに記入する。（２分間）○班で意見を共有し、発表の準備をする。（２分間）○学級で意見を共有する。（４分間）○気持ちを言葉で表現することについて、自分の傾向を考える。（２分間） | 💡ＩＣＴ機器や黒板掲示できる用紙を活用して意見を共有することもできる。・「ＡさんとＢさんはこれらの気持ちを感じていたけど、言いませんでした。皆さんだったら、自分の気持ちを言いますか？言いませんか？」と発問する。 |
| 展開２５分 | ３ 教材動画を観る。 | ・児童生徒を観察して、心配な様子が見られた場合はそっと声を掛ける。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 展開３13分 | ４ ワーク３自分の気持ちを振り返り、言葉で表現する。自分の気持ちを言葉で表現してみよう。○個人で考え、ワークシートに記入する。（３分間）○次の１～４を、班（４人が基本）内で交代しながら実施する。（６分間）。１.発表者を決める。２.発表者がワークシート①のセリフを参考にして発表する。３.他の児童生徒が時計回りに一人ずつ、ワークシート②のセリフを参考にして、優しく言葉を返す。４.拍手する。○班内でお礼を言い合う。 | ・授業者がテーマを指定する（学校行事、今年度の思い出など）。・授業者が１回ずつ区切って、実施を促す。💡他の児童生徒から優しく言葉を返してもらい、どのような気持ちになったのか話し合うこともできる。💡ワークシート②のセリフは、いくつかのパターンを用意して選択できるようにすると、より安全に実施できる。（例）「○○かったんだね」　　 「○○しい気持ちだったんだね」　 　「私も○○だったよ」　　 「○○して、良い思い出だね」　　 「○○していたんだね」　　 「○○したのに良く頑張ったね」 |
| まとめ10分 | ５ ワーク４本時で学んだことを振り返る。この授業で考えたこと、分かったことを書きましょう。・個人で考え、ワークシートに記入する。（４分間）６ 授業者からの話（まとめ）を聞く。（３分間）・相談窓口一覧を受け取り、説明を聞く。・ワークシートを提出する。※可能であれば「相談に関する１分間アンケート」を実施し、児童生徒の実態を把握し、児童生徒理解やＳＯＳの声の確認に活用する。 | 💡ワーク４を班や学級で発表し合うこともできる。・授業のねらいを確認したり、マイナスな気持ちは一人で抱え込まず、大人に言ってもらいたいという願いを伝える。・マイナスな気持ちを話す相手として、電話相談等も活用できることを伝える。・ワークシートやアンケートは他の児童生徒から見られないように工夫して回収する。・授業後に全員分の記述を確認する。※必ず回収日のうちに内容を確認し、ＳＯＳの声が書かれているか確認する。 |